年間テーマ
「一人ひとりを認め、尊重し、愛する」

No,427

ペンテコステ

2025 年 4 月 1 日
（毎月 1 回 1 日発行）
カトリック谷山教会
〒891-0113
鹿児島市東谷山 2-33-13
TEL・099-268-2084
FAx・099-284-5738
E-Mail:taniyama-cc@Lagoonne.jp URL.https:://catholic-tc.jp
発行人 盛 克志神父　編集委員：上原敏子、上釜照美、徳永珠美

ネガティヴ・ケイパビリティー（Negative Capability）

答えを急がずに・・・

カトリック谷山教会　主任司祭　盛　克志

今年の主の復活の日は4月20日ですので、今私たちは　四旬節の只中にいます。毎年、教会はこの季節、「祈り」・「節制」・「愛の業」を行うことを勧めています。回心の恵みを受け、今年も希望に満ちた主の復活を心より待ち望みましょう。

現代の社会では、いかにスピーディーに物事を判断・決断し、問題をてきぱきと処理し、早く答えを出すことが求められています。

しかし、フランシスコ教皇が来日した時、若者たちに「人生で大事なのは正解ではなく、正しく問い続けることだ」とおっしゃいました。

英国の詩人であるジョン・キーツ（1795-1821）は、日々の生活の中から次の言葉を残してくださいました、それはネガティヴ・ケイパビリティー（Negative Capability）と言う言葉です。この言葉は、「性急に真実や理由を求めることをせず、不確実さとか不可解さとか懐疑の中にとどまり続けることができる能力」であると訳されています。

パウロが、ローマにいる信徒へ送った手紙の中で、「わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことがありません」と。（ローマの信徒への手紙 5 章 3-5 節）

苦難とは、私たちを日々襲ってくる苦しみです。忍耐は「期待して踏みとどまる」ということで、また、練達は「確信」とも訳される言葉です。これは神さまとの関係がしっかりしているのであれば、苦難の中でも期待して忍耐することができ、その中で確信が与えられ、それが希望となるということです。この言葉はパウロが実体験したものです。

信仰生活とは、今すぐには、全てが理解できなくても「委ねることを学ぶ旅」とも言えるでしょう。日々、神さまに信頼しながらこの旅を続けていきましょう！

『思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。』（ペトロの手紙一　5章7節）

～4月の聖人から～

4月9日　聖マダレナ・カノッサ

1774年-1835年

マダレナは、イタリアの貴族の家に生まれる。17歳のときにカルメル修道会に入会したが、貧しい子女のために教育をすることの必要性を感じて修道会を去り、「カノッサ修道女会」を創立（1808年）した。

この修道会は日本には1951年に来日し、世田谷、大牟田（福岡）、水俣（熊本）、大口（鹿児島）で、学校教育・社会福祉活動に貢献している。（聖パウロ女子修道会）

4月16日　聖ベルナデッタ

1844年～1879年

1944年1月7日、フランスのルルドという小さな村で生まれた。非常に貧しい家庭で育ったベルナデッタは、たまにしか学校に行けなかったので、読み書きもできない内気な少女だった。その上病弱で、死ぬまで喘息（ぜんそく）から逃れることはできなかった。

1858年2月11日、ベルナデッタが14歳のとき、妹と友だちの3人で、家の近くのガブ川の岸辺に、たきぎを拾いに行った。すると、目の前の洞窟に不思議な光に包まれた聖母マリアが現れた。しかし、一緒にいた妹と友だちには何も見えなかった。この日から7月16日までの5カ月の間、聖母マリアはルルドの洞窟に18回現れ、「罪びとのために祈りなさい」と、ベルナデッタをじっと見つめながら言われ、彼女は絶え間なくロザリオの祈りを唱えていた。

ベルナデッタは、家の手伝いをしているときも、ヌヴェール愛徳修道会に入ってからも、臨終の床で耐え難い苦しみの中にあるときも、いつもロザリオの祈りをささげていた。

1879年4月16日、35歳の若さで亡くなり、修道院内の墓に埋葬された。死後30年、40年、46年と彼女の墓が開けられたが、遺体は全く腐敗しておらず、1933年12月8日、教皇ピオ11世によって列聖された。ベルナデッタの遺体は、今もヌヴェール愛徳修道会の聖堂に静かに安置されている。聖地ルルドは、年間400万を越す人びとが世界中から巡礼に訪れ、聖母マリアが現れた洞窟から湧き出る水によって、今も多くの奇跡が行われている。

聖パウロ女子修道会

前回の続き

聖なる神秘（七）の数字

シスター安藤克子

鹿児島教区では2024・12・29～2025・12・28　カテドラルザビエル教会にて開幕式のセレモニーとミサが捧げられました。（詳細は鹿・教区報2025・2月号参照）

今回の通常聖年公布の大勅書の「希望は欺かない―希望の巡礼者―」のはじめに“フランシスコ・ローマの司教・神のしもべたちのしもべ。この書簡を読む人々の心が、希望で満たされますように”とあり、「希望はわたしたちを欺くことがありません」（ローマ5・5）…「すべての人にとって聖年が、救いの「門」である主・イエスとの生き生きとした個人的な出会いの時となりますように…」教皇様は私たち一人ひとりと向き合い、語りかけておられるような温かいお言葉がつづられています。

教皇様は、全世界の「奉献生活者の皆様」に向けての手紙に於いて「世界奉献生活の聖年について」の聖年のタイトルを「平和の道を歩む希望の巡礼者」となさり、「平和こそが今の時代、最も重要な緊急課題であると、私たちには思えるからです。」とし「この聖年は和解、回心、秘跡としてのゆるしの年であり、まただからこそ、自分たちの兄弟姉妹とともに喜んで平和のうちに、連帯、希望、正義、神の奉仕への献身を生きる年でもあります。」

男女の奉献生活者の聖年の祝い式典は、ローマにて2025・10・8～12予定されていますが、各国自分の国での聖年のお祝いとして、鹿・教区では、教区修道女連盟主催で2025・2・1（土）「奉献生活者と共に捧げるミサ」が、鹿・カテドラル・ザビエル教会にて（14時～）中野裕明司教さまと小隈憲士（鹿・修道女連盟顧問司祭）の共同司式にて捧げられました。（詳細は鹿・教区報2025・3月号参照）次回へ続く

MEMORY

いつもありがとう！

写真撮影・平田龍二

侍者を務める笑顔の少年少女たち

季明發（ユージンリー）神父様（48歳）　通訳をされる盛克志主任

シンガポールのノベナ（絶えざる御助けの聖母）教会で11年間主任司祭を務めるレデンプトール修道会の神父様です。

十　主の平安

谷山教会共同体の皆様、ご機嫌いかがですか。四旬節も半ばを過ぎ、ますます聖性の光に包まれていることでしょう。さて、主の復活を迎える準備に励んでいる私たちですが、果たして主の御復活は私たちの生活とどのように関わっているのでしょうか。キリストが復活なさった事は死をも足元に置く神の底知らぬ力の現れであり、未来において私たちがより頼む希望であると感じてはいるのですが、今の私は主の御復活によってどうなっているのでしょうか。過去の出来事と未来への関心と期待を持つことはとても大切なことです。しかしよく忘れがちなのが、現在の自分と主の復活の関係です。主が復活なさったのは現在生きている私たちが日々の瞬間瞬間を感謝のうちに生き生きと生きるためでもあるのです。つまり、私たちは現在だけでなく、過去も未来もいまも主の復活に生かされて生きているということを意識したいものです。私たちの人生はすべてが三位一体の神の時の流れの中にあって、全ての時間と存在と繋がっていると考えるのは決して大げさなことではないと思います。よりよい御復活祭りをお送りくださいませ。感謝のうち　　ヤコブ福崎英雄 C.Ss.R

土

こッつん　こッつん
ぶたれる土は
よいはたけになって
よい麦生むよ。

朝からばんまで
ふまれる土は
よいみちになって
車を通すよ。

ぶたれぬ土は
ふまれぬ土は
いらない土か

いえいえそれは
名のない草の
おやどをするよ。

―金子みすゞ―

復活祭の喜びを生きるためのヒント

マルコ・アントニオ・マルティネス神父

主イエス・キリストの復活の喜びはその日一日だけの喜びではありません。私たちの日常生活の中で、信仰と希望のうちにこれを活かさなければなりません。そのためのヒントが幾つかあります。

1）死から生命へ

教会の年間の典礼の中で復活祭は第一のお祝いです。死から生命への主イエス・キリストの勝利は、私たちキリスト信者が毎日を復活の生命の喜びのなかで生きていくためのものなのです。その為に心のなかにある暗闇、妬み、日常の煩わしさを取り去って替りに生命の光でその心を満たすときなのです。

2）偽りから真実へ

ことばと行いは、偽りの無い毎日の生活を必要とします。自分に対して、他の人に対して真実であることによって復活の喜びはもっともっと輝きを増すのです。

3）自己中心（エゴイズム）から分ち合いへ

自分でこうしたい、あれもやりたい、こんなふうになって欲しいと無い物を求めるよりも、いま自分にある良い物を分かち合うことが大切です。いつでもどこでも、サービス（奉仕）の心で他の人と向かい合うようにしましょう。

毎日の忙しさのなかで自分のために時間を見つけましょう。そして、日々の生活のなかでその時間をキリストの復活の喜びを味わうために大切にしましょう。

マタイ福音書第5章に私たちが本当の喜びを生きるための主イエス・キリストのことばがあります。今年の復活節においてそのことばを生きていきたいものです。

幸い

こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。
悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。
柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう。
義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう。
あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。
心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。
平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。
義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。
（マタイによる福音書（口語訳）5:3-10）　　「シャローム」2009 年 04 月号掲載

令和7年(2025年) 谷山教会　4月の予定と祝日表 （4月 1日～4月30日）

今月の行事当番班は6・7班です。

日		時	典礼と行事	朗読奉仕者	掃除当番	班会
1日	火	6:30	朝ミサ			
2日	水	19:00	召命ミサ			
3日	木	6:30	朝ミサ			
4日	金	6:30	初金ミサ　　十字架の道行10:00～			
5日	土	19:00	四旬節第5主日のミサ		①	教会
6日	日	6:30&9:00	四旬節第5主日	①		
7日	月		朝ミサなし			
8日	火		朝ミサなし			
9日	水	19:00	召命ミサ			
10日	木	6:30	朝ミサ			
11日	金	6:30	朝ミサ　　十字架の道行10;00～			
12日	土	19:00	主の受難(枝の主日)のミサ 9:00～蘇鉄の枝切(150本)		②・③	教会
13日	日	6:30&9:00	主の受難(枝の主日)　　ミサ後役員会	②・③		
14日	月	6:30	朝ミサ/受難の月曜日			
15日	火	6:30	朝ミサ/受難の火曜日			
16日	水	19:00	召命ミサ/受難の水曜日			
17日	木	19:00	主の晩餐のミサ/聖木曜日			
18日	金	19:00	十字架礼拝/聖金曜日　(大斎・小斎)			
19日	土	19:00	復活徹夜祭　10:00～卵(200個)・ローソクの準備 タペストリーの交換		④	教会
20日	日	祭日 10:00	復活祭/　ミサ後復活祭お祝いクレメンスホール 復活の主日　　コミチウム1:30～	④		
21日	月	6:30	朝ミサ			
22日	火	6:30	朝ミサ			
23日	水	19:00	召命ミサ			
24日	木	6:30	朝ミサ			
25日	金	祝日 6:30	聖マルコ福音記者 朝ミサ			
26日	土	19:00	復活節第2主日のミサ		⑤・⑪	教会
27日	日	6:30&9:00	復活節第2主日(神のいつくしみの主日) ミサ後司牧評議会	⑤・⑪		
28日	月		朝ミサなし			
29日	火	記念日	聖カタリナ(シエナ)おとめ教会博士 朝ミサなし　　昭和の日			
30日	水	19:00	召命ミサ			

＊5/11(日)ミサ後信徒総会(会計報告と活動方針及び決算の承認など)

ロザリオの祈り	毎週火曜日　10:00～	1, 8, 15, 22,29日
レジオ・マリエ	毎週水曜日　13:30～	2, 9, 16, 23, 30日
聖書と教理－Ⅱ	毎週金曜日　10:00～12:00	4, 11, 18, 25日